

2025年2月19日
入江工研株式会社

第18回内子町駅伝徒競走大会初出場・初優勝

入江工研株式会社（本社：東京都千代田区）の内子工場所属メンバーで構成される「入江工研駅伝チーム」が、1月19日に開催された第18回内子町駅伝徒競走大会一般の部（2部）で初出場・初優勝を果たしました。



表彰式後に記念撮影する入江工研駅伝チーム

■大会概要

愛媛県喜多郡内子町は当社内子工場が操業しております。当社は地域活性化と地域社会との調和を目的に教育委員会が主催する「内子町駅伝大会」に入江工研駅伝チームとして初出場をいたしました。大会は今回で18回を数え、「駅伝競走大会を通して町民のスポーツに対する理解と関心を高めるとともに、相互の親睦を深め住みよい明るい町づくりに寄与する」ことを目的とし、高校の体会所属の生徒も参加するなど内子町として力を入れているイベントの一つです。オリンピックマラソン出場の土佐礼子選手、箱根駅伝出場経験があり、現神奈川大学駅伝チーム大岩歩夢アシスタントコーチもエキシビション参加されるなど非常に注目度も高い大会でもあります。当日は46チームが参加し、当社は一般の部（2部）総距離22.4kmにエントリーしました。

■優勝までの道のり

1月19日は天候に恵まれ、気温9度の「駅伝日和」となりました。初出場ながらも「3位以内」を目標に掲げ、周囲の期待も高まりました。会社のバックアップ体制も万全で、ユニフォーム支給や取材サポートが行われました。



スタート前に記念撮影する入江工研駅伝チーム

■各区分詳細

- 第1区 (3.0km) : 松本康次郎選手 (生産技術 G 班長) が区分賞を獲得し、主導権を握りました。松本選手は高校からの長距離経験を活かし、11分9秒の好記録で1位となりました。
- 第2区 (4.3km) : 中村正教選手 (製造 G) が区分2位17分15秒で安定した走りを見せました。中村選手はコースを知り尽くしているベテランです。
- 第3区 (3.0km) : 船田憲司選手 (生産技術 G 主務) が区分賞を達成し、優勝に向けて貯金を作りました。12分29秒の好記録を出しました。
- 第4区 (2.3km) : 菊地鋭二選手 (品質保証 G 係長) が家族の応援を受けて力走しました。菊地選手は12分16秒で区分7位の好成績を収めました。
- 第5区 (3.6km) : 源浩選手 (生産技術 G 主査) が安定したフォームで区分7位を記録しました。源選手は長距離歴10年のベテランで、16分17秒の好記録を出しました。
- 第6区 (2.8km) : 高本豪選手 (調達 G) が区分2位で優勝を手繰り寄せました。高本選手は昨年も他チームでの参加経験があり、12分00秒の好記録を出しました。
- 第7区 (3.4km) : 福武修造選手 (品質保証 G) がアンカーとしてゴールテープを切り、初優勝を達成しました。福武選手は17分10秒で区分6位を記録し、総合タイムは1時間38分36秒で2位とは4分31秒差の圧勝劇でした。

■大会を終えて



代表取締役 入江への優勝報告後の撮影

当社は来年で60周年を迎えます。今まで地域のバレーボール、ソフトボール、駅伝などいろいろ参加しましたが、私の記憶によれば「優勝」という文字を見たのは今回が初めてです。

私も30年前、いくつかの駅伝大会に参加した経験があります。駅伝は他のスポーツと違って、個人競技で有りながら団体競技です。一本の襷を繋ぐ大切さは誰よりも知っているつもりです。

この経験を普段の生活にも活かし、みんなで心の襷を繋いで、人生を素晴らしいものにして下さい。

優勝おめでとう！

代表取締役社長 入江 則裕



チームワークと個人の実力が発揮され、初出場・初優勝の快挙を達成しました。来年は一般の部（1部）に昇格し、さらなる挑戦が期待されます。

以上